

# 住

## 愛知県板金工業組合

# 結成以来、 全国の板金業組合を牽引

### 名古屋の活動が全国へと発展

大正 10 年（1922）ころから、愛知県内には板金関係の組合が 10 ほどあり、名古屋市にも名古屋<sup>ぶりき</sup>鉄業工業組合や名古屋<sup>かざり</sup>銅鉄 鋳 工組合などがありました。これらの組合を基に昭和 13 年（1938）、愛知県板金工業組合が結成されました。当時の組合員は 2,000 名以上であったともいわれています。このころから板金組合の全国組織化の動きが始まり、昭和 15 年（1940）に全国板金工業組合連合会が結成されましたが、その中心的役割を果たしたのが愛知県板金工業組合でした。

また、昭和 36 年（1961）に国民皆保険制度が整備されましたが、一人親方が加入できるのは政府管掌健康保険よりも保険料が高い国民健康保険でした。そこで保険料を安くすることを目的とした名古屋板金工保険組合がつけられました。この組合が昭和 45 年（1970）に発足した全国板金業国民健康保険組合に発展していきました。また一人親方では加入できない労災保険も、特別加入制度をつくり対応してきました。

現在は組合員数が減って 350 名ほどですが、それでも全国ではトップクラスの規模を誇っています。



細かな部品の一つ一つも、すべて手作りの五重塔

### 昭和 42 年から毎月、組合の新聞を発行

組合員が従事するのは主に屋根、雨樋、ダクトといった建築板金で、製作から施工までを行っています。板金は 1 枚のブリキや銅板を展開図にそって切りだし、叩いて曲げたり貼り付けて製品にします。現在は、そうした作業もかなりの部分が機械に置き換わりつつありますが、技能向上のためブロックごとに技能検定 1 級、2 級の取得に向けた合同練習を毎年数回は行っています。

そうした技能を生かし、工芸的なものをつくる人もいます。また、技能向上や安全管理をはじめとした様々な情報を発信し、組合員の交流を図るため、昭和 42 年（1967）7 月からほぼ毎月 1 回の割で新聞「愛板」を発行し続けています。



板金で作った銅の灯籠



お茶を沸かしたりお酒の燗もできる